

ドキュメンタリー映画 『ご縁玉』

文部科学省選定（少年・青年・成人向き）、朝日新聞厚生文化事業団後援、キネマ旬報文化映画ベスト10入賞作品

山ちゃんの本やCDが  
日本全国の公共図書館に届くまで

映画と語り合いと音楽のとき

# 第四回 「ご縁玉・プロジェクト」

あなたから、ひとりでも多くの人に伝えてほしいやさしさがある

主催: INTERBAY

20, rue Louis Morard 75014 Paris France

TEL : 01 4540 3322 FAX : 01 4540 3323 [interbay@free.fr](mailto:interbay@free.fr)

# 山ちゃん(山田泉)さんプロフィール。

1959年、大分県豊後高田市のお菓子屋の娘として生まれ、育ちました。勉強は苦手でしたが、「保健室の先生になりたい！」という夢を実現するべく慣れない猛勉強をして1979年、養護教諭となりました。

その後、豊後高田市の小中学校で、保健室の先生を続けます。「子どもたちには、自分をないがしろにしてほしくない」、という思いで、性教育や人権教育にも熱心に取り組みました。規格に収まらない活動的な養護教諭として、県内では有名に。学校では、友達関係、両親の不和など、多くの悩みを抱える思春期の子どもたちに寄り添い続ける日々。

真一さん(真ちゃん)と出会い、息子さん、娘さんに恵まれました。

2000年、41歳で乳がんの告知。ショックから立ち直ると、患者会「オードリーの会」を設立しました。米国の女優「オードリー・ヘップバーン」が、がんで亡くなるまで、病気や飢えに苦しむ人々の支援に力を尽くしたことから、内面の美しさを受け継ぎたいという思いでこの名前にしたそうです。山田家には今も、ヘップバーンさんの大きな写真が飾ってあります。仲間同士で支え合い、励まし合って、楽しい日々を送ろうという活動を続けました。

2002年春に復職。ところが学校は生徒たちの「殺す」「死ね」という言葉が飛び交う殺伐とした空間でした。保健室のベッドから出ようとしなない男子生徒がふざけて「オレ、がんじゃもん」と言った瞬間、気持ちが切れる音がしたといいます。

仲間と支え合ってきた場所とのあまりの落差。

「もう、ここにはおれん」と職場を去る決断に傾いたその時、1人の女生徒に、「自分の命も、人の命も、同じように大事やとを感じる授業しちよくれ」と言われてはっとしました。

「それならば」と、自らの体験をもとに<いのちの授業>を開始。自分の体験談にとどまらず、校外から、さまざまな大人を招いて、その生き方を語ってもらうことで、子どもたちの心を耕していきました。ハンセン病で長く差別された女性、障害を抱えながら世界にいどむアスリート、老舗旅館で人々をもてなしつつ社会に発信を続ける文化人、脳性まひながら足で筆を握る書家、そして大分出身の元首相のあの人まで……。

どの大人も輝いていました。そして、どの人も、悩み、迷った末に今の輝きを手に入れ、なお悩み迷いながら歩いていました。

そんな大人の素の姿に、生徒たちは惹き付けられていきます。

子どもに押しつけない授業は評判となり、メディアでもたびたび取り上げられました。

ところが、2005年、乳がんが再発し休職。

06年秋、職場に戻りましたが、体力の限界を感じて08年3月に退職を決意しました。「保健室のおばちゃん」として、常に子どもたちと共にあった28年間でした。その後も、ゲスト講師としての「いのちの授業」、自宅での「町の保健室」、講演活動などで、メッセージを発信しつづけてきました。

2007年夏、「思い出を作ろう」と旅したパリでエリックマリアと出会ったことが、映画「ご縁玉 パリから大分へ」に繋がっていきました。

残念ながら病気は進行。大分での先行ロードショー最終日の2008年11月21日、大分市のホスピス「ゆふみ病院」でふらりと戻らない旅に出てしまいました。

旅立つ直前、意識がなかった山ちゃんが突然、はっきりとした口調で、「生きることは、人のために尽くすこと。これで終わります！」。ベッドを囲んでいた医療スタッフも家族も、これにはびっくり。そして、自然に拍手がわき起こったとか。

最期まで授業をしていたようです。子どもが大好きで、ボランティアが大好きだった山ちゃんらしい一言を残してくれました。

映画「ご縁玉」は、亡くなった後に各地で公開され、話題になりました。

人と人が出会い、新たな人生が開かれていくこの映画の物語は、1人ひとりが建前や利害を超えて支え合うことを目指し続けた山ちゃんらしい作品となっています。

最初の著書「いのちの授業をもう一度」(高文研)は、学校での出来事をエッセー風につづった文章をまとめたもの。粹からはみ出しがちな山ちゃんの言葉はパワフルで、読む人を泣かせたり笑わせたりします。

続編は「いのちの恩返し」(高文研)。山ちゃんがどのような気持ちで「いのちの授業」を展開していったのか、たっぷり読むことができます。

(紹介文・朝日新聞社 上野創)

2007年9月 山田泉さんパリの地下鉄にて



## 活動理念

当プロジェクトは、2008年に他界された元養護教諭、山田泉さんが、出演された映画「ご縁玉」の上映と観客参加型のトーク、そして音楽を通して、社会における文化交流の活動に寄与することを目的とし、「音楽や映画が社会にできること」の一つとして、学校や病院、医療関係など、さまざまな施設にて本プロジェクトを実施しております。

第一回目は約600名の参加者、第二回は1600名そして2011年の第三回目には2000名の方々が日本全国30カ所以上の場所で、この『ご縁玉・プロジェクト』に参加され、飾りの無い音楽に触れて頂き、参加者と関係者が互いに交歓の感動を確かめ合えることができました。

## 目標

当プロジェクトの収益金の一部は映画『ご縁玉』のサウンドトラック CD と共に山田泉さんの著書である『いのちの授業』をもう一度』と『いのちの恩返し』この二冊をセットにして日本全国約 3000 館以上ある公共図書館に贈呈する費用に使わせて頂きます。

この目標達成を目指して『ご縁玉・プロジェクト』の活動を続けて参ります。

日本全国の公共図書館は 3164 館 (2009 年度統計)

## 助成／協力／協賛

無料や可能な限り低廉な入場料を設定した「ご縁玉・プロジェクト」の提供を行うために、この趣旨に多くの方が賛同され、ご協力をいただけることを切に希望いたします。多くの人々から高い評価を得られるプロジェクトとして活動を継続するために、皆様のお力を賜りたくお願い申し上げます。特に次の4点の協力をお願い致します。

- \*渡航費(フランス／日本の往復分)
- \*上映機材(プロジェクター、スピーカー)
- \*現地交通費もしくは移動費(レンタカー、ジャパンレールパスなど)
- \*宿泊施設等

# 『ご縁玉・プロジェクト』GOENDAMA PROJECT

2009年度キネマ旬報文化映画ベスト8に入賞した映画『ご縁玉』の監督江口方康は、元養護教諭『いのちの授業』で話題になった今は亡き山田泉さんからとても大切な「ご縁」に気付かせて頂きました。わたしは今まで以上にこの「ご縁」を大切にしてくる事が出来たら、もっともっとやさしい社会になるのではないかと確信致します。われわれはそんな「ご縁」の波紋と共に、病院、学校、さまざまな施設でこの『ご縁玉・プロジェクト』を実施しております。

## 『ご縁玉・プロジェクト』とはどんなことをするのか？

このプロジェクトは以下3つの柱からなります。

1. 映画『ご縁玉』の上映:72分
2. 監督、関係者を交えた観客参加型のトーク:約30分
3. プロジェクト参加者によるミニ・コンサート(地元の音楽家大歓迎):約30分

## 開催までの流れ

1. 実施日・出演アーティストの決定
2. Eメールによる開催希望の応募受付
3. Eメールによる打合せ(日程調整)
4. 実施校・団体／病院・施設の決定
5. Eメールによる本番進行打合せ

## プロジェクト当日の流れ

1. 上映／演奏リハーサル準備(マイクやプロジェクターなどの設置):約30分
2. 開場
3. 映画の上映:72分
4. 上映後会場内点灯／スタッフ紹介・挨拶(そのままトークへ):約30分
5. \*ここで休憩が入る場所もありますが、通常この流れのまま演奏へ:約30分
6. 終演後、ひとりひとりにご縁玉を手渡しする最後の挨拶
7. 撤収

## 準備するもの<実施校・団体/病院・施設>

- ・会場の用意(一般の会館・ホール・団体の体育館・講堂・施設のサロンなどなど)
- ・控え室(なければ構いません)
- ・映画上映費:15000円 / これは配給会社へ支払う特別料金です(通常10万円)。
- ・上映設備一般(DVCAM/DVD再生機／プロジェクター／白い壁もしくはスクリーンそしてスピーカー)
- ・演奏用の設備は会場や出演者によって異なりますので、打合せで決定したいと思います。
- ・宿泊施設(ホテルである必要はありませんが、ゲストがいない場合。部屋は必ず1部屋お願い致します)
- ・現地での食費/交通費(送り迎え)
- ・地元での広報(必要に応じて)問い合わせ対応(来場者より詳細な場所や駐車場などの問い合わせが有ります)
- ・当日の配布用プログラムの作成(わかりやすく簡単なもので構いません)
- ・マイク等のPA(拡声)装置(挨拶、トーク用です。演奏自体のPAは確認必要有り)
- \*アーティストや出演者への出演料(謝礼)に関しては開催場所によってまちまちですので、直接『ご縁玉・プロジェクト』の方へお問い合わせお願いいたします。

2010年度第二回『ご縁玉・プロジェクト』で行われた佐賀県成瀬中学校での様子をご紹介します。当日の時間調整のため、生徒たちには、前日に映画『ご縁玉』を観てもらいました。



映画について生徒たちとのトークが始まりました。左が江口監督。右は出演者エリック-マリア。



エリック-マリアはフランス語なので江口監督自ら通訳をします。



楽器チェロについてエリック-マリアと江口監督からの説明が始まりました。



恐る恐る初めてチェロに触れる生徒たち。



チェロに耳をつけて響きを直接体験してみる生徒。



映画の中で演奏していたエリック-マリアが目の前で。

(写真・内容は成瀬中学校のオフィシャルサイトからの抜粋です)



やさしく情熱的な最高の演奏を生で聴く生徒たち。



生徒代表からお礼の言葉。



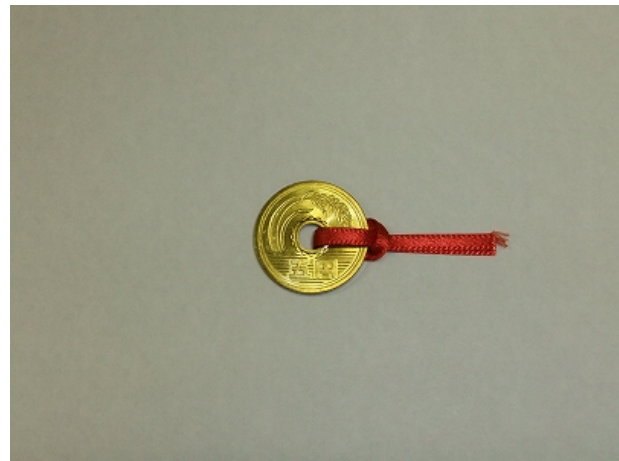
生徒たちより感謝を込めた花束贈呈を受ける二人。



この二人より参加してくれた全員にサプライズが...



一人一人に直接、手渡しされる五円玉。「ご縁」を大切にする二人のプロジェクトに生徒たちも感激。



これがその五円玉です。

少しでも多くの人に、山ちゃんの思いが詰まった本やCDに込められた音、そして彼女から頂いた大切な「ご縁」を繋げて行きたいと思います。

(お問い合わせ先) インターベイ: 担当/江口方康 interbay@free.fr